

自身もがんを抱える女性が立ち上げた

東村山に「がん哲学外来メディカル・カフェ」開設

お茶を飲みながら、リラックスした雰囲気の中で、病
気への不安や、悩み、思いを共有し、互いに寄り添える
場が、西武線東村山駅近くにできる。「東村山がん哲学
外来メディカル・カフェ」だ。16日には「がん哲学」の
提唱者、順天堂大学の樋野興夫医師が「病気も個性の一
つである」の題で記念講演をする。

16日・樋野医師の記念講演



「暖かな風貌」と「偉大なるお節介」で
患者さんと対話される樋野医師

同メディカル・カフェを立
ち上げたのは東村山市の大弥
佳寿子さん(51)。乳がんが
見つかったのは15年前、夫の
転勤先のドーハ(カタール)
に着いてまもなくだった。「し
こりがある」。自分で気がつ
いた。医者に診てもらったら
直径1センチの大きさという。出
国前に検査をした時はなんでも
なかったのに、なんで」。8
歳の長男は夫に託し、3歳
の次男をつれて日本に帰って
手術をした。現在はホルモン



大弥佳寿子さん

療法をしている。
病気になり様々な不安や悩
みに押しつぶされそうになっ
ていた時、樋野医師の「がん
哲学」の講演を聞き、メディ
カル・カフェに参加。「話を
聞いてもらい、自分に寄り
添ってくれる場があること
で、自分の尊厳を取り戻し、
自分らしく日々を送る力にな
りました」。

病気を告知されて、誰でも
自分の人生を考え、自分らし
い生き方を探求する。それを
樋野医師は「がん哲学」と名
づけ、2008年に「がん哲
学外来メディカル・カフェ」

を立ち上げた。現在は全国に
約50カ所に設置されている。
「患者さん、ご家族、友人、
医療に従事されている方、介
護中の方、ご遺族、学生さん
など、その垣根を取り払い、
同じテーブルで、お茶を飲み
ながら語りませんか」と大
弥さんは呼びかける。
次回は9月21日(日)、10
月18日(土)で同サンパ
ル
内。
後援：一般社団法人がん哲
学外来 <http://www.gantetsu.org/>
ugaku.org/

■ 開設記念プログラム

8月16日14時～16時半、東村山市民ステーション「サンパルネ」コ
ンベンションホール(東村山駅西口より直結)。

【第1部】 順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授で、一般社団法人が
ん哲学外来理事長である樋野医師の特別講演。ほかに「がん哲学外来
の全国的な拡がり」の題でがん哲学外来メディカル・カフェあずまや
主催、あずま在宅医療クリニック院長・東英子医師(大阪市)が話す。

【第2部】 メディカル・カフェ(テーブルに分かれて、茶菓を囲んでの
語らいのひと時を持つ)。15時から別室で樋野医師との個人面談(先
着3人)。

○参加希望者はFAX(042・395・2140) かメール(E-mail: kzoya@
aa.bb-east.ne.jp) で名前、住所、電話番号、ファクス番号、メールアドレス、
一緒に参加する人との関係、樋野医師との個人面談の希望の有
無を書いて申し込む。参加費300円(飲み物と資料代。当日受付に支
払う。高校生以下無料)。☎042・395・2140大弥さんへ